

授業科目		臨床美術						【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	小野寺 良枝	

科目の特徴 (ねらい)	臨床美術では、作品制作のみでなく、独自のアプローチを生かした作品制作の過程を通して、新しい物の見方や他者とのかかわり方(アートコミュニケーション)等を獲得する。
成績評価	出席・授業態度・レポート等総合評価する。 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	臨床美術・基幹① 臨床美術の沿革
2	臨床美術・基幹② 臨床美術の基礎的な知識
3	存在論的人間観
4	臨床美術入門① オイルパステルを使って作品制作
5	臨床美術入門② オイルパステルを使って作品制作
6	臨床美術入門③ オイルパステルを使って作品制作
7	臨床美術入門④ オイルパステルを使って作品制作
8	臨床美術・コミュニケーション① 共同制作①
9	臨床美術・コミュニケーション② 共同制作②
10	臨床美術・コミュニケーション③ 共同制作③
11	臨床美術・コミュニケーション④ 共同制作④
12	臨床美術実践の基礎① 量感画への理解を深める
13	臨床美術実践の基礎② 量感画への理解を深める
14	臨床美術実践の基礎③ 量感画への理解を深める
15	臨床美術実践の基礎④ 量感画への理解を深める
16	定期テスト

教科書	臨床美術の手法 いてくれてありがとう
-----	-----------------------

授業科目		心理学【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	石岡 れい子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師として職業上必要となるであろう知識を習得するのが一番の目標である。本科目では、一般教養としても心理学及び専門職として必要な心理学を学ぶ。実際の講義では、発達に沿った心理学や精神医学などの心理学のちしきを学ぶ。カウンセリング技術で他者の接し方を考え、心理テストを通して自己の理解を深めていく。
成績評価	定期テストと中間試験の成績、平常点(提出物等)、出席率、授業参加、態度によって総合的に評価する。

回数	授業内容
1	オリエンテーション 知覚
2	学習・記憶
3	やる気の心理
4	動機づけ
5	感情
6	知能
7	思考
8	発達(1)
9	発達(2)
10	人間関係
11	集団
12	精神的健康
13	カウンセリング
14	心理学の応用分野
15	心理学の歴史と研究法
16	予備日 ※定期試験

教科書	二宮克美編集 ベーシック 心理学 第2版(医歯薬出版)
-----	-----------------------------

授業科目		生命科学Ⅰ						【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	榎本 良孝	

科目の特徴 (ねらい)	生物や生命現象・自然に対する関心や探求心を高め、生命科学の基本的な概念や原理・法則を学ぶ。特にヒトの体の成り立ち、仕組み、働きなどの知識や理解を深めることにより医療従事者としての心構えや能力を養うことをねらいとする。本授業では、「生物の分類」、「生体物質」、「細胞」、「細胞分裂」、「配偶子形成」、「酵素」、「呼吸とATP」、「筋肉」、「感覚器」、「体液」に関する基本的な知識や理解を深める。
成績評価	各分野の理解度を総合的に評価する。100点満点で試験を行い60点以上を合格とする。不合格者については再試験を実施し60点以上を合格とする。

回数	授業内容
1	ガイダンス、原核生物と真核生物、ウイルス
2	生体を構成する物質
3	細胞の構造と働き
4	細胞膜の構造と働き
5	体細胞分裂
6	減数分裂、体細胞分裂と減数分裂の比較
7	動物の配偶子形成、酵素とその働き
8	代謝とエネルギー、ATPの構造と働き
9	異化、呼吸のしくみ
10	筋肉の種類・構造、筋収縮のしくみ
11	筋収縮とそのエネルギー
12	刺激の受容(1)
13	刺激の受容(2)
14	体液とその働き(1)
15	体液とその働き(2)
16	講義のまとめ

教科書	最新図説生物 (第一学習社)
-----	----------------

授業科目		生命科学Ⅱ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	榎本 良孝

科目の特徴 (ねらい)	生物や生命現象・自然に対する関心や探求心を高め、生命科学の基本的な概念や原理・法則を学ぶ。特にヒトの体の成り立ち、仕組み、働きなどの知識や理解を深めることにより医療従事者としての心構えや能力を養うことをねらいとする。本授業では、「肝臓」、「腎臓」、「神経」、「ホルモン」、「ホメオスタシス」、「免疫」、「生殖と発生」、「遺伝」に関する基本的な知識や理解を深める。
成績評価	各分野の理解度を総合的に評価する。100点満点で試験を行い60点以上を合格とする。不合格者については再試験を実施し60点以上を合格する。

回数	授業内容
1	ガイダンス、肝臓の構造と働き
2	腎臓の構造と働き
3	神経による調節(1)
4	神経による調節(2)
5	神経による調節(3)
6	ホルモンによる調節(1)
7	ホルモンによる調節(2)
8	ホメオスタシス(1)
9	ホメオスタシス(2)
10	免疫(1)
11	免疫(2)
12	生殖と発生
13	発生と誘導
14	遺伝の法則
15	二遺伝子雑種、検定交雑
16	講義のまとめ

教科書	最新図説生物 (第一学習社)
-----	----------------

授業科目		生命科学Ⅲ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	榎本 良孝

科目の特徴 (ねらい)	生物や生命現象・自然に対する関心や探求心を高め、生命科学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、特にヒトを中心とした生命科学現象について知識や理解を深める事を目標とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	ガイダンス、細胞分裂
2	細胞周期
3	発生と分化(1)
4	発生と分化(2)
5	老化
6	遺伝
7	染色体とゲノム
8	DNA
9	遺伝子の発現
10	遺伝子工学
11	様々な環境問題(1)
12	様々な環境問題(2)
13	地球規模で進行する環境問題
14	おだやかなライフスタイルを確立するために
15	講義のまとめ
16	定期試験

教科書	生命の科学 (小林弘明ほか著、東京教学社)
-----	-----------------------

授業科目		外国語(英語) 【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	富岡 義勝

科目の特徴 (ねらい)	外国人の患者とのコミュニケーションが円滑に出来るような英語力を身につけるため (1)基礎的な医療英語の語彙を学習する。 (2)身体各部位について本文中に使われた英文を読み、実用的英語表現を習得する。
成績評価	期末筆記試験(100%) * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	イントロダクション Lessons1 & 2 基本読解
2	Lesson1 & 2 痛む場所を聞く 応用演習
3	Lesson3 & 4 痛みの種類、程度、経過
4	Lesson3 & 4 演習と復習
5	Lesson5 & 6 肢位の表現 基本
6	Lesson5 & 6 肢位の表現 応用
7	Lesson7 Vital Sign バイタルサイン
8	Lesson8 自動可動域の測定
9	Lesson9 他動可動域の測定
10	Lesson10 体幹可動域の測定
11	Lesson11 頸部可動域の測定
12	Lesson12 筋力の測定
13	Lesson13 触覚検査
14	Lesson14 バランス検査、歩行検査
15	Lesson15 移乗動作
16	全体のまとめ

教科書	リハビリテーション英会話 (メジカルビュー社、2018年) 適宜プリントで配布します。
-----	--

授業科目		保健体育Ⅰ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	4	時間	128	担当教員	角田 誠

科目の特徴 (ねらい)	フィットネス基礎理論を理解し、健康と医療のつながりを習得 健康寿命の延伸と生活の質の向上(QOL)の運動指導法の習得 運動器の基礎解剖学、運動生理学の知識習得 ストレッチ・レジスタンス・エアロビックダンスの理論・実技の習得 グループエクササイズ指導の心得を習得
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	23	グループエクササイズのクラス運営	45	レジスタンスエクササイズのプログラミング、音楽使用、構成上の留意点
2	フィットネス概論 (日本の人口・死因・運動と健康)	24	グループエクササイズフィットネスインストラクターのプロになるための心得・活動のための必要経費と税金	46	レジスタンスエクササイズ指導法(実技)
3	フィットネス概論 (日本の人口・死因・運動と健康)	25	グループエクササイズフィットネスインストラクターのプロになるための心得・担当クラスの内容と確認事項	47	ストレッチングエクササイズ レジスタンスエクササイズ 実技試験対策
4	フィットネス概論(運動不足病)	26	グループエクササイズフィットネスインストラクターのプロになるための心得・プロとしての行動	48	中間試験
5	フィットネス概論(健康日本21)	27	グループエクササイズフィットネスインストラクターのプロになるための心得・仕事の場を広げる	49	ADBIオリエンテーション
6	フィットネス概論(健康日本21)	28	グループエクササイズフィットネスインストラクターのプロになるための心得・まとめ	50	有酸素運動の基礎知識 身体運動のエネルギー供給機構 実施効果、トレーニングの条件
7	体力学・トレーニング科学 (運動処方・トレーニング原理原則)	29	演習	51	有酸素運動の基礎知識 評価法、目標心拍数、消費量、加齢変化
8	体力学・トレーニング科学 (運動処方・トレーニング原理原則)	30	演習	52	有酸素運動の基礎知識 クーパー理論
9	体力学・トレーニング科学 (運動処方・トレーニング原理原則)	31	演習	53	エアロビックダンスの歴史と運動特性 日本のエアロの変遷、発展と定着
10	運動と栄養	32	中間試験	54	エアロビックダンスの歴史と運動特性 エアロビックダンスエクササイズ特徴 研究結果
11	運動と栄養	33	ストレッチングの基礎知識、ストレッチングの必要性・実施と効果	55	エアロビックダンスエクササイズ基本の動き 良い姿勢、運動中の姿勢、動きの注意点 下肢・上肢の動き
12	心と運動(行動変容)	34	ストレッチングの種類と特徴、実技(スタティック)	56	エアロビックダンスエクササイズ基本の動き 上肢と下肢の動きの組み合わせ 全身運動としての調和
13	運動と安全管理(ケガの応急処置)	35	ストレッチングの種類と特徴、実技(ダイナミック・パリスティック)	57	エアロビックダンスエクササイズのプログラミング、インストラクターの役割 効果的で安全なプログラムと運動強度
14	運動器の基礎解剖学	36	ストレッチングの種類と特徴、実技(PNF及び振重)	58	エアロビックダンスエクササイズのプログラミング 運動強度を変化させる要因、動きの難度、プログラムの基本構成

15	運動生理学	37	ストレッチングの基本の動き、目的と方法 実施にあたってのポイントと注意、実施上の留意点	59	エアロビックダンスエクササイズのプログラミング ウォームアップ・メインエクササイズ、クールダウンの目的と内容
16	中間試験	38	ストレッチングのプログラミング、指導方法	60	プログラミング：動きの展開、コリオグラフィーの作り方、音楽の役割、対象者の応じたプログラム
17	グループエクササイズ指導理論 グループエクササイズ指導の定義と指導者の役割	39	レジスタンスエクササイズ 基礎知識種類と特徴と実施効果（筋の活動様式の違いによるトレーニング効果）	61	エアロビックダンスエクササイズ指導法の循環、動きを習得させる指導法 コリオグラフィーの指導法
18	グループエクササイズ指導の準備	40	レジスタンスエクササイズの 負荷設定 レジスタンスエクササイズ中の循環系の反応	62	運動環境の整備：ウェア、室温、床、用具 音響
19	グループエクササイズ指導の準備	41	高齢者のレジスタンスエクササイズの基本の動き、目的と方法	63	実技試験対策
20	グループエクササイズ指導の実際、指導の循環 コミュニケーションスキル	42	レジスタンスエクササイズの実施の条件 実施上の留意点、基本動作	64	定期試験
21	グループエクササイズ指導の実際、動きの学習段階、指導の向き、ウォーミングアップとクールダウン	43	レジスタンスエクササイズ実技（上肢筋のエクササイズ）		
22	指導の動き	44	レジスタンスエクササイズ実技（体幹筋のエクササイズ）		

教科書	フィットネス基礎理論	レジスタンスエクササイズ指導理論
	グループエクササイズ指導理論 ストレッチングエクササイズ指導理論	エアロビックダンスエクササイズ指導理論

授業科目		保健体育Ⅱ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	角田 誠

科目の特徴 (ねらい)	ファンクショナル(機能性)トレーニングの理解と実践能力の習得 シナプスロジ(脳の活性化)トレーニングの理解と実践能力の習得 トレーナーとして多様性の能力を身につける
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	ファンクショナルトレーニングの種類と特徴
3	機能性体幹トレーニング
4	アジリティトレーニング
5	プライオメトリクストレーニング
6	ウエイトトレーニング
7	自重負荷トレーニング
8	チューブトレーニング
9	簡易的な器具を用いたトレーニング
10	シナプスロジートレーニング(同時能力)
11	シナプスロジートレーニング(同時能力)
12	シナプスロジートレーニング(同時能力)
13	シナプスロジートレーニング(同時能力)
14	シナプスロジートレーニング(同時能力)
15	シナプスロジートレーニング(同時能力)
16	定期試験

教科書	
-----	--

授業科目		解剖学Ⅰ						【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	前期	単位	4	時間	64	担当教員	青木 良仁	

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、解剖学(人体の構造)を十分に理解し習得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	人体の区分、解剖学的姿勢	17	体幹の骨(脊柱①)
2	解剖学用語、骨の形状による分類	18	体幹の骨(脊柱②)
3	骨の構造、骨の発生と成長	19	体幹の骨(脊柱③)
4	骨学総論、骨の連結	20	体幹の骨(胸骨・肋骨①)
5	上肢の骨(上肢帯①)	21	体幹の骨(胸骨・肋骨②)
6	上肢の骨(上肢帯②)	22	体幹の骨(復習)
7	上肢の骨(自由上肢骨①)	23	①関節の動き、基本面と基本軸
8	上肢の骨(自由上肢骨②)	24	②関節の動き、基本面と基本軸
9	上肢の骨(復習)	25	関節の分類
10	下肢の骨(自由下肢骨①)	26	頭蓋(脳頭蓋①)
11	下肢の骨(自由下肢骨②)	27	頭蓋(脳頭蓋②)
12	下肢の骨(下肢帯①)	28	頭蓋(顔面頭蓋①)
13	下肢の骨(下肢帯②)	29	頭蓋(顔面頭蓋②)
14	下肢の骨(下肢帯③)	30	頭蓋(顔面頭蓋③)
15	下肢の骨(復習)	31	頭蓋(復習)
16	中間テスト	32	定期テスト

教科書	解剖学 (医歯薬出版)
-----	-------------

授業科目		解剖学Ⅱ						【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	4	時間	64	担当教員	青木 良仁	

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、解剖学(人体の構造)を十分に理解し習得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	起始・停止、筋の作用	17	上肢の筋①
2	筋の補助装置、神経・運動単位	18	上肢の筋②
3	頸部の筋①	19	上肢の筋③
4	頸部の筋②	20	上肢の筋④
5	胸部の筋①	21	上肢の筋⑤
6	胸部の筋②	22	上肢の筋⑥
7	胸部の筋③	23	下肢帯の筋①
8	腹部の筋①	24	下肢帯の筋②
9	腹部の筋②	25	下肢帯の筋③
10	背部の筋①	26	下肢の筋①
11	背部の筋②	27	下肢の筋②
12	背部の筋③	28	下肢の筋③
13	上肢帯の筋①	29	下肢の筋④
14	上肢帯の筋②	30	下肢の筋⑤
15	復習	31	復習
16	中間テスト	32	定期テスト

教科書	解剖学（医歯薬出版）
-----	------------

授業科目		解剖学Ⅲ						【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	前期	単位	4	時間	64	担当教員	岩手医科大学	

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、解剖学(人体の構造)を十分に理解し習得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	脈管系(総論)	17	内臓系(消化器)
2	脈管系(心臓)	18	
3		19	
4		20	
5	動脈系	21	内臓系(呼吸器)
6		22	
7		23	
8		24	
9	静脈・リンパ管系	25	内臓系(泌尿器)
10		26	
11		27	
12		28	
13	静脈・リンパ管系	29	内臓系(生殖器)
14		30	
15		31	
16	中間テスト	32	定期テスト

教科書	解剖学 (医歯薬出版)
-----	-------------

授業科目		解剖学Ⅳ				【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	後期	単位	4	時間	64	担当教員
								燕 軍・橋本 泰乃

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、解剖学(人体の構造)を十分に理解し習得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	組織学	17	神経系(基礎)
2	内分泌系	18	神経系(脳)
3		19	
4		20	
5		21	
6		22	
7		23	神経系(脊椎)
8		24	
9		25	神経系(末梢神経)
10		26	
11	感覚器系	27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16	中間テスト	32	定期テスト

教科書	解剖学 (医歯薬出版)
-----	-------------

授業科目		生理学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	4	時間	64	担当教員	松本 範雄

学科の特徴 (ねらい)	身体の様々な働き方がどのような機序や調節に基づいているか、その仕組みを総合的に学ぶことを目的としている。 1学年では主に様々な植物生理学と基本的な動物生理学を学ぶ。
成績評価	ペーパーテスト

回数	授業内容	回数	授業内容
1	生理学とは	17	体温調節
2	血液	18	国試問題解説
3	血液	19	内分泌：総論
4	国試問題解説	20	内分泌
5	循環	21	内分泌
6	循環	22	内分泌 (Powerpoint)
7	国試問題解説	23	国試問題解説
8	呼吸	24	生殖
9	呼吸	25	ニューロン・活動電位・興奮伝導
10	国試問題解説	26	シナプスと興奮伝達
11	消化・吸収と栄養・代謝	27	ニューロン・シナプス(Powerpoint)
12	消化・吸収と栄養・代謝	28	国試問題解説
13	国試問題解説	29	神経系：末梢神経系
14	排泄	30	神経系：自律神経
15	排泄	31	末梢神経系 (Powerpoint)
16	国試問題解説と中間試験	32	国試問題解説

教科書	生理学 改訂第4版 (南江堂出版)
-----	-------------------

授業科目		生理学Ⅱ						【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	4	時間	64	担当教員	松本 範雄	

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、生理学を十分に理解し修得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	血液	17	尿の生成と排泄
2		18	
3		19	
4	骨の生理	20	
5		21	
6		22	
7	循環	23	栄養と代謝
8		24	
9		25	消化と吸収
10		26	
11		27	
12	呼吸の生理	28	体温とその調節
13		29	
14		30	
15		31	
16	中間テスト	32	定期テスト

教科書	生理学 改訂第4版（南江堂出版）
-----	------------------

授業科目		運動学【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	内藤 順平

科目の特徴 (ねらい)	本学科は柔道整復師に求められる治療の知識と技術を習得し、スポーツトレーナーの資格と超高齢社会で必要とされる介護系の資格を取得することができるため、医療を通じて人々の支えとなり社会貢献できる人材の育成を目指す。
成績評価	筆記試験の成績および出席状況による。

回数	授業内容
1	運動の目的
2	運動の表し方、身体運動と力学
3	運動器の構造と機能
4	神経の構造と機能
5	運動感覚、反射と随意運動
6	四肢と体幹運動(上肢帯と上腕)
7	四肢と体幹運動(前腕と手)
8	四肢と体幹運動(股関節)
9	四肢と体幹運動(膝関節)
10	四肢と体幹運動(足関節と足)
11	四肢と体幹運動(脊柱と頸椎)
12	四肢と体幹運動(胸椎、腰椎、骨盤、頭部)
13	姿 勢
14	歩 行
15	運動発達、運動学習
16	試験及び試験問題の解説

教科書	柔道整復 運動学
-----	----------

授業科目		競技者の生理学特徴・変化【講義】					学 科	スポーツ柔整学科	
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	内藤 順平

科目の特徴 (ねらい)	本学科は柔道整復師に求められる治療の知識と技術を習得し、スポーツトレーナーの資格と超高齢社会で必要とされる介護系の資格を取得することができるため、医療を通じて人々の支えとなり社会貢献できる人材の育成を目指す。
成績評価	筆記試験の成績および出席状況による。

回数	授業内容
1	小児期から青年期の発育特性(リンパ型曲線)
2	小児期から青年期の発育特性(神経型曲線)
3	小児期から青年期の発育特性(一般型、生殖型曲線)
4	小児期から青年期の骨格系の発達と運動
5	小児期から青年期の筋肉系の発達と運動
6	小児期から青年期の呼吸器系の機能と運動
7	小児期から青年期の循環器系の機能と運動
8	発達期の運動不足・過運動の影響
9	運動の習熟
10	競技者の生理的特性の基礎
11	トレーニングによる適応
12	競技者の神経機構の特性Ⅰ
13	競技者の神経機構の特性Ⅱ
14	姿勢制御
15	眼球運動と姿勢制御Ⅰ
16	試験および試験問題の解説

教科書	柔道整復生理学(追加資料)
-----	---------------

授業科目		病理学概論【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	小村 圭介

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師を目指して学習している学生諸氏が、病理学の勉強を通して疾病における細胞、組織、臓器の形態変化を理解し、将来の医療従事者としての素養および医学的知識の基礎となるように、解剖生理学・組織学も含めた総合的な理解を深める事を目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	病理学とは
2	疾病の一般
3	細胞障害
4	
5	循環障害
6	
7	進行性病変と細胞、組織の適応
8	
9	炎症
10	免疫異常、アレルギー
11	
12	腫瘍
13	先天性異常
14	
15	病因
16	定期試験

教科書	病理学概論 改訂版(史資料出版協会)
-----	--------------------

授業科目		一般臨床医学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	田島 浩一

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師が施術できる業務範囲は負傷原因が明らかにされた外傷であり、おのずと施術範囲は制限されるが、現代医学の病理学的背景に裏付けられた疾病分類など幅広い知識を身につけ、国家資格として担うべき十分なレベルを満たし、社会に貢献できる柔道整復師を育成することを目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	問診、視診、打診、聴診、触診(P1～P52)
2	
3	
4	
5	
6	
7	生命徴候:バイタルサイン(P52～P60)
8	
9	
10	
11	知覚検査、反射検査、代表的な臨床症状、検査法(P60～P97)
12	
13	
14	
15	
16	定期試験

教科書	一般臨床医学（医歯薬出版）
-----	---------------

授業科目		一般臨床医学Ⅱ 【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	田島 浩一

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師が施術できる業務範囲は負傷原因が明らかにされた外傷であり、おのずと施術範囲は制限されるが、現代医学の病理学的背景に裏付けられた疾病分類など幅広い知識を身につけ、国家資格をして担うべき十分なレベルを満たし、社会に貢献出来る柔道整復師を育成することを目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	呼吸器疾患(P99～P114)
2	
3	循環器疾患(P114～P129)
4	
5	消化器疾患(P129～P156)
6	代謝疾患(P156～P171)
7	
8	内分泌疾患(P172～P185)
9	
10	血液・造血器疾患(P185～P196)
11	
12	腎・尿路疾患(P198～P218)
13	神経疾患(P220～P236)
14	感染症(P237～P249)
15	リウマチ・膠原病・アレルギー、環境要因による疾患(P251～P262)
16	

教科書	一般臨床医学（医歯薬出版）
-----	---------------

授業科目		外科学概論【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	村上 礼一

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師の教育にあつて外科学の占める割合は多くはないが、外科学の基礎的な知識を理解、習得することで、国家資格として担うべき知識レベルを満たす必要がある。また資格取得後の日常臨床の場で適切な施術につなげることを目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	損傷(P5～P22)
2	
3	炎症と外科感染症(P23～P32)
4	腫瘍(P33～P49)
5	ショック(P51～P55)
6	輸血、輸液(P57～P71)
7	消毒と滅菌(P73～P75)
8	手術、麻酔(P77～P94)
9	移植と免疫(P95～P99)
10	出血と止血、心肺蘇生法(P101～P120)
11	脳神経外科疾患(P123～P139)
12	
13	甲状腺・頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患(P141～P158)
14	心臓・脈管疾患、乳腺疾患(P159～P184)
15	腹部外科疾患(P185～P225)
16	定期試験

教科書	外科学概論 (南江堂)
-----	-------------

授業科目		整形外科学				【講義】	学 科	スポーツ柔整学科	
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	三上 貴浩

科目の特徴 (ねらい)	整形外科学は一言でいえば、運動器の医学であるが、その他にも肢体不自由児の療育、スポーツ医学、義肢・舗装具学、リハビリテーション医学など整形外科が関与する領域は大きい。ここでは、柔道整復師として必要な整形外科的知識を身につけ、国家資格として担うべき十分なレベルを満たし、社会に貢献できる柔道整復師を育成することを目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	総論
2	
3	
4	感染性疾患・骨及び軟部腫瘍
5	非感染性疾患・関節疾患
6	全身性の骨・軟部疾患、骨端症、四肢循環障害
7	神経、筋の系統疾患
8	体幹、肩甲帯及び上肢の疾患
9	上腕及び肘関節
10	前腕、手関節及び手、手指
11	骨盤及び下肢の疾患
12	大腿及び膝関節
13	下腿及び足関節
14	足及び足趾
15	復習
16	定期試験

教科書	整形外科学第4版（南江堂）
-----	---------------

授業科目		リハビリテーション医学 【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	漆畑 俊哉・新岡 大和

科目の特徴 (ねらい)	医療技術の進歩によってリハビリテーションの対象や時期が変わり、それに伴ってリハビリテーションを取り巻く環境は日々変わり続けている。対象者のQOLを高めるためにはリハビリテーション医学について、幅広い知識と技術が必要である。本科目ではリハビリテーション医学について、その基礎的知識から評価・診断・治療、その実際までを講義する。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	
1	リハビリテーションの概念と歴史・リハビリテーション医学	新岡
2	リハビリテーション医学と関連職種・リハビリテーションと福祉	新岡
3	リハビリテーション医学の基礎医学①	漆畑
4	リハビリテーションの基礎医学①	漆畑
5	リハビリテーション医学の評価と診断①	新岡
6	リハビリテーション医学の評価と診断②	新岡
7	リハビリテーション医学の評価と診断③	新岡
8	リハビリテーション医学の評価と診断④	新岡
9	リハビリテーションの治療①	漆畑
10	リハビリテーションの治療②	漆畑
11	リハビリテーションの治療③	漆畑
12	リハビリテーションの治療④	漆畑
13	リハビリテーションの実際①	新岡
14	リハビリテーションの実際②	新岡
15	リハビリテーションの実際③	漆畑
16	リハビリテーションの実際④	漆畑

教科書	リハビリテーション医学 改訂第3版および第4版（南江堂）
-----	------------------------------

授業科目		柔道整復術の適応【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	三上 貴浩

科目の特徴 (ねらい)	医師と同様に、急性外傷に対する柔道整復師の役割は大きい。特に骨折、脱臼の整復は医師と柔道整復のみに許されている。重大な後遺症や時に生命予後を左右する急性期症状に対して適切な判断ができるように種々の病態を統合的に学習していく。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	柔道整復術の適否を考える
3	損傷に類似した症状を示す疾患
4	血管損傷を伴う損傷
5	末梢神経損傷を伴う損傷
6	脱臼骨折
7	外出血を伴う損傷
8	病的骨折および脱臼
9	意識障害を伴う損傷
10	脊髄症状のある損傷
11	呼吸運動障害を伴う損傷
12	内臓損傷の合併が疑われる損傷
13	高エネルギー外傷
14	医用画像の理解
15	医用画像の理解
16	復習

教科書	資料配付
-----	------

授業科目		衛生学・公衆衛生学【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	米満 正美

科目の特徴 (ねらい)	開業医と同様に柔道整復師も地域の公衆衛生活動の推進者となることが期待されており、この分野の十分な知識の習得と理解が不可欠となっている。ここでは、卒業後の地域の公衆衛生活動に寄与することを念頭に置きつつ、基礎的知識の確実な習得及び理解を目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動
2	健康の概念
3	疫学
4	疾病予防と健康管理
5	感染症の予防
6	消毒
7	環境保健
8	母子保健
9	学校保健
10	産業保健
11	成人・老人保健
12	精神保健
13	生活環境・食品衛生活動
14	地域保健と国際保健
15	衛生行政と保健医療の制度
16	復習

教科書	衛生学・公衆衛生学（南江堂）
-----	----------------

授業科目		関係法規(社会保険制度論を含む)【講義】					学 科	スポーツ柔整学科	
学年	3	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師は厚生労働大臣の免許を受けた業務独占資格であり、その業務に従事するにあたり法令を理解し遵守しなければならないことは言うまでもない。ここでは、柔道整復師法(罰則を含む)および医療を中心にその関係法規の学習を通して、法の種類や体系などの基本的理解および医療従事者としての倫理観の形成を目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	法の意義
2	法の体系
3	柔道整復師法および柔道整復に関する法規
4	柔道整復師と患者の権利
5	総則
6	免許
7	柔道整復師試験
8	業務
9	施術所
10	雑則
11	罰則
12	
13	指定登録機関及び指定試験機関
14	附則
15	医療法
16	医療従事者の資格法、その他の関係法規

教科書	関係法規 (医歯薬出版)
-----	--------------

授業科目		柔道Ⅰ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。礼法、受身、基本的、对人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解できるような制度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ学習も取り入れることがある。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	柔道小史、受身
2	出足払い、膝車、支釣込足
3	浮き落とし
4	背負投
5	肩車
6	浮腰
7	払腰
8	釣込腰
9	送足払
10	支釣込足
11	内股
12	投げの形、打ち込み、投げ込み、乱取り
13	
14	
15	
16	定期試験

教科書	学校柔道 改訂版（史資料出版協会）
-----	-------------------

授業科目		柔道Ⅱ						【実技】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	2	時間	64	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）	

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。礼法、受身、基本的、对人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解できるような制度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ学習も取り入れることがある。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	受身	17	受身、礼法、足さばき
2	出足払い、膝車、支釣込足	18	受身、礼法、投げの形(浮き落とし)
3	浮き落とし	19	受身、礼法、投げの形(浮き落とし)乱取
4	背負投	20	受身、礼法、投げの形(浮き落とし・一本背負い)
5	肩車	21	受身、礼法、投げの形(浮き落とし・一本背負い)
6	浮腰	22	受身、礼法、投げの形(肩車)乱取
7	払腰	23	受身、礼法、投げの形(肩車)乱取
8	釣込腰	24	礼法・投げの形(第一教)
9	送足払	25	礼法・投げの形(第一教)
10	支釣込足	26	受身、礼法・投げの形(第二教)浮き腰
11	内股	27	受身、礼法・投げの形(第二教)浮き腰
12	投げの形、打ち込み、投げ込み、乱取り	28	受身、礼法・投げの形(第二教)払い腰
13		29	受身、礼法・投げの形(第二教)払い腰
14		30	受身、礼法・投げの形(第二教)釣り込み腰
15		31	受身、礼法・投げの形(第二教)釣り込み腰
16	中間試験	32	定期試験

教科書	学校柔道 改訂版（史資料出版協会）
-----	-------------------

授業科目		職業倫理【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	16	担当教員	藤巻 将継（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師は開業する事も可能であるため、インフォームド・コンセントや患者中心の医療について考えながら、柔道整復師の立場、患者の立場双方からのリスクマネジメントができる人材を育成できるように講義していく。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	職業倫理とは
3	パターンリズム
4	バイオエシックス
5	インフォームド・コンセント、守秘義務
6	柔道整復師の社会的責任
7	ケース・スタディ
8	復習

教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）
-----	--------------------------

授業科目		職業教育Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	16	担当教員	笠原 哲二郎（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師の取り扱う療養費について学ぶ。 また、実際の療養費の算定方法について理解を深める。
成績評価	定期試験により評価する。

回数	授業内容
1	療養費について
2	柔道整復療養費について
3	柔道整復療養費の支給対象
4	柔道整復療養費の推移
5	療養費の算定(料金、初検料、初検時相談支援料、時間外、休日・深夜加算、再検料)
6	療養費の算定(その他の施術料)
7	施術録
8	一部負担金

教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）
-----	--------------------------

授業科目		職業教育Ⅱ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	16	担当教員	笠原 哲二郎（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	施術行為以外の柔道整復業務について理解する。 施術録の書き方、療養費の請求について学ぶ。
成績評価	定期試験にて評価する

回数	授業内容
1	施術録の記載方法
2	支給申請書の作成方法
3	施術経過初見の記載方法
4	事例1
5	事例2
6	事例3
7	事例4
8	事例5

教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）
-----	--------------------------

授業科目		社会保障制度【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	16	担当教員	藤巻 将継（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	社会保障制度を知ることにより、本来の社会保険等・療養費の「あり方」を学び、すべての国民の「健康と福祉を創造させる」今後の業界を担う次世代の柔道整復師を育成していく。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション・社会保障制度
2	社会保険・年金保険・介護保険
3	労働保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生
4	医療保険・国民医療費の現状
5	療養費・現金給付・償還払い・受領委任払い
6	柔道整復術・受領委任の取扱規程
7	療養費の算定・施術録
8	定期テスト・社会保障費復習

教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）
-----	--------------------------

授業科目		基礎柔整学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	6	時間	96	担当教員	新井田 一吏

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置付けから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。業務範囲や今後の方向付け、業務の正しい理解を促し、今後の学習の基礎を形成することを目的とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17		33	固定法
2	概説	18	小児骨折・高齢者骨折	34	
3		19		35	後療法(手技療法)
4	骨の形態と機能	20	筋損傷	36	後療法(運動療法)
5	骨損傷の分類	21	筋損傷の分類・治癒機序	37	後療法(物理療法)
6		22	筋損傷の症状・予後	38	
7		23	神経の構造と機能	39	
8	骨折の症状	24	神経損傷	40	指導管理
9		25	四肢血管損傷	41	指導管理
10		26	評価	42	
11	骨折の合併症	27		43	
12		28	整復法(骨折)	44	復習
13		29		45	
14	骨癒合日数・治癒経過	30	整復法(脱臼)	46	
15	骨折の予後	31		47	
16	中間試験	32	中間試験	48	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 第6版 (南江堂)
-----	--------------------

授業科目		基礎柔整学Ⅱ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	4	時間	64	担当教員	藤巻 将継・笠原 哲二郎（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復理論を学習する上で、解剖学の知識の十分な定着と理解が必要な事は明白である。しかし、解剖学では圧倒的な量の名称と事実を主に机上で理解し習得せねばならず、その困難は大きなものである。そこで、ここでは柔道整復理論に必要な解剖学の内容を整理し、その知識の確実な定着を図ることを目的とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17	下肢の骨・関節
2	骨格系総論	18	
3	解剖学的用語	19	筋系総論
4	骨の連結	20	胸部の筋
5	基本面と基本軸	21	
6	脊柱の骨・関節	22	背部の筋
7		23	
8		24	上肢の筋
9		25	
10	胸郭の骨・関節	26	
11		27	
12	上肢の骨・関節	28	下肢の筋
13		29	
14		30	頸部の筋
15		31	復習
16	中間テスト	32	定期テスト

教科書	資料配布、解剖学（医歯薬出版）
-----	-----------------

授業科目		総合柔整学						【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	佐藤 陽子	

科目の特徴 (ねらい)	1年次に学習した柔道整復学総論を中心に復習と総まとめを目的とした講義を行う。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨折総論
3	骨折総論
4	骨折総論
5	骨折総論
6	骨折総論
7	脱臼総論
8	脱臼総論
9	捻挫
10	筋損傷・腱損傷
11	診察
12	治療法:整復法
13	治療法:固定法
14	治療法:後療法
15	指導管理
16	まとめ

教科書	柔道整復学 理論編 (南江堂)
-----	-----------------

授業科目		外傷の保存療法と経過及び治癒の判定【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	本木 利之（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	本講義では、外傷の保存療法の実際と治癒の判断について学ぶ。実際の症例を交えて講義を進める。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	肩関節脱臼 整復 固定法
3	鎖骨骨折 整復 固定法
4	肘関節脱臼 整復 固定法
5	認定実技練習
6	認定実技練習
7	認定実技練習
8	認定実技練習
9	認定実技練習
10	認定実技練習
11	認定実技練習
12	認定実技練習
13	認定実技練習
14	認定実技練習
15	認定実技練習
16	認定実技練習

教科書	プリント
-----	------

授業科目		スポーツ臨床柔整学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	6	時間	96	担当教員	新井田 一吏

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置付けから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。業務範囲や今後の方向付け、業務の正しい理解を促し、今後の学習の基礎を形成することを目的とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17	小児骨折・高齢者骨折	33	固定法
2	概説	18		34	
3		19		35	後療法(手技療法)
4	骨の形態と機能	20	筋損傷	36	後療法(運動療法)
5	骨損傷の分類	21	筋損傷の分類・治癒機序	37	後療法(物理療法)
6		22	筋損傷の症状・予後	38	
7		23	神経の構造と機能	39	
8	骨折の症状	24	神経損傷	40	指導管理
9		25	四肢血管損傷	41	
10		26	評価	42	
11	骨折の症状	27		43	
12		28	整復法(骨折)	44	復習
13		29		45	
14	骨癒合日数・治癒経過	30	整復法(骨折)	46	
15	骨折の予後	31		47	
16	中間試験	32	中間試験	48	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 第6版 (南江堂)
-----	--------------------

授業科目		スポーツ臨床柔整学Ⅱ【講義】					学 科	スポーツ柔整学科	
学年	1	学期	通年	単位	6	時間	96	担当教員	藤巻 将継・久野 貴史（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置付けから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。業務範囲や今後の方向付け、業務の正しい理解を促し、今後の学習の基礎を形成することを目的とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	骨盤部：機能解剖	17	膝関節：機能解剖	33	下腿骨骨幹部骨折
2	骨盤骨骨折	18	大腿骨遠位部骨折	34	
3		19	下腿骨近位部骨折	35	下腿部の軟部組織損傷 (アキレス腱断裂、下腿三頭筋肉離れ)他の軟部組織損傷
4	股関節：機能解剖	20	膝関節脱臼	36	
5	大腿骨近位部骨折	21	膝蓋骨骨折	37	その他の注意すべき疾患
6		22	膝蓋骨脱臼	38	
7		23	膝関節部軟部組織損傷 (MCL,LCL,ACL,PCL,MM,LM) 他の軟部組織損傷	39	足関節：機能解剖
8	股関節脱臼	24		40	下腿骨遠位部の骨折
9	股関節の軟部組織損傷	25		41	下腿骨遠位部の骨折
10	注意すべき疾患	26		42	
11	大腿部：機能解剖	27		43	足根骨骨折、足関節の脱臼、足関節捻挫
12	大腿骨骨幹部骨折	28		44	足・足趾部：機能解剖
13	大腿部打撲	29		45	足根骨骨折、中足骨骨折
14	大腿部肉離れ	30	下腿部：機能解剖	46	趾骨骨折、足根部脱臼
15	大腿部骨化性筋炎	31		47	足趾間関節脱臼、中足趾節関節脱臼
16	中間試験	32	中間試験	48	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 第6版（南江堂）
-----	-------------------

授業科目		スポーツ臨床柔整学Ⅲ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置付けから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。業務範囲や今後の方向づけ、業務の正しい理解を促し、今後の学習の基礎を形成することを目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	頭部、顔面部の損傷：頭部顔面部の機能解剖、頭部顔面部の骨折
2	
3	頭部、顔面部の損傷：顎関節脱臼
4	頭部、顔面部の損傷：軟部組織損傷
5	頸部の損傷：頸椎の機能解剖、頸椎骨折、頸椎脱臼
6	
7	頸部の損傷：軟部組織損傷
8	
9	
10	胸、背部の損傷：胸背部の機能解剖、肋骨骨折、肋軟骨骨折
11	
12	胸、背部の損傷：胸椎骨折、胸椎脱臼
13	胸、背部の損傷：軟部組織損傷
14	腰部の損傷：腰部の機能解剖、腰椎骨折、腰椎脱臼
15	腰部の損傷：軟部組織損傷
16	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 第6版（南江堂）
-----	-------------------

授業科目		スポーツ臨床柔整学Ⅶ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	スポーツ臨床柔整学Ⅶでは、1、2年で学習した各論の内容で、より理解が必要な項目を中心に臨床現場での内容を取り入れながら、骨折、脱臼を中心に再度学習していく。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	鎖骨骨折
2	鎖骨脱臼
3	上腕骨近位端部骨折
4	肩関節脱臼
5	上腕骨遠位部骨折
6	肘関節脱臼
7	前腕骨遠位端部骨折
8	中手骨骨折
9	指骨骨折
10	大腿骨近位部骨折
11	股関節脱臼
12	膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼
13	下腿骨骨折、膝蓋骨脱臼
14	
15	足、趾部の骨折
16	肋骨骨折

教科書	柔道整復学理論編第6版（南江堂）
-----	------------------

授業科目		総合臨床学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	臨床における注意点と臨床の現場に置けるスムーズな診断方法を学ぶ。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	柔道整復理論 P351～P354
2	柔道整復理論 P354～P359
3	柔道整復理論 P359～P363
4	柔道整復理論 P363～P367
5	柔道整復理論 P367～P370
6	柔道整復理論 P370～P374
7	柔道整復理論 P374～P378
8	柔道整復理論 P378～P380
9	柔道整復理論 P380～P383
10	総合演習
11	総合演習
12	総合演習
13	総合演習
14	総合演習
15	総合演習
16	総合演習

教科書	柔道整復学理論編（南江堂）
-----	---------------

授業科目		総合臨床学Ⅱ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復学上肢(上肢帯から上腕部)までの骨折、脱臼、筋腱損傷について総まとめと演習を中心に講義をすすめる。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	鎖骨部損傷:機能解剖
3	鎖骨骨折
4	鎖骨の脱臼
5	肩関節部損傷:機能解剖
6	肩甲骨骨折
7	上腕近位部骨折
8	肩関節脱臼
9	肩関節部の軟部組織損傷
10	上腕部の損傷:機能解剖
11	上腕骨骨幹部骨折
12	上腕部の軟部損傷
13	総合演習
14	総合演習
15	総合演習
16	総合演習

教科書	柔道整復学理論編 (南江堂)
-----	----------------

授業科目		柔道整復学特別講義【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	藤巻 将継（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師は、その職域から整形外科分野、リハビリテーション分野を含む幅広い知識を持って施術に当たる必要がある。そのため柔道整復分野のみならず、その基礎となる解剖学・運動学などの機能解剖および整形・リハビリ分野を含めた総合的理解を必要とする。この講義では各科目を総合的に復習、演習をすすめて行く。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	機能解剖学(運動学)
3	機能解剖学(運動学)
4	機能解剖学(運動学)
5	機能解剖学(運動学)
6	機能解剖学(運動学)
7	柔道整復学および整形外科学演習
8	柔道整復学および整形外科学演習
9	柔道整復学および整形外科学演習
10	柔道整復学および整形外科学演習
11	柔道整復学およびリハビリテーション医学演習
12	柔道整復学およびリハビリテーション医学演習
13	柔道整復学およびリハビリテーション医学演習
14	柔道整復学およびリハビリテーション医学演習
15	総合演習
16	総合演習

教科書	資料配付
-----	------

授業科目		包帯固定学【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	64	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師の包帯法は、歴史的に長い年月をかけて先人達が築きあげてきた独特の技術であり、主に臨床現場で師から弟子へと伝えられて来たものである。2003年に標準となる教科書が編纂されたが、教育現場でも一定水準の技術とその理論を伝えるため、臨床に基づいた技術の習得を目的とする。また講義は副子、ギプスなども多く取り入れより臨床に即した内容とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	固定、固定材料の種類	17	部位別包帯法
2	包帯の巻き方の基礎と注意事項	18	
3	基本法帯法	19	
4		20	
5		21	
6		22	
7		23	
8	冠名包帯法	24	厚紙副子による固定
9		25	
10		26	
11		27	クラーメル(金属副子)による固定
12		28	
13		29	三角巾による堤肘
14		30	
15		31	さらし(晒)による固定
16	中間テスト	32	定期テスト

教科書	包帯固定学（南江堂）
-----	------------

授業科目		基礎柔整実技Ⅰ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	2	時間	64	担当教員	藤巻 将継（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復術では、古くから運動器疾患に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴ってその施術対象も増加し、習得すべき技術も多くを求められるようになった。運動器疾患の正確な診断を行うための基礎となるのは視診、問診に始まり触診法、理学的徒手検査法にある。本授業では初期研修として徒手検査法習得に加えて、柔道整復術における徒手治療法の根幹をなす手技療法、さらに運動療法の基礎的理解と基礎技術習得を目的とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	身体計測法①	17	関節可動域測定①
2	身体計測法②	18	関節可動域測定②
3	手技療法①(基礎実技)	19	関節可動域測定③
4	手技療法②(基礎実技)	20	関節可動域測定④
5	手技療法③(基礎実技)	21	関節可動域測定⑤
6	手技療法④(基礎実技)	22	関節可動域測定⑥
7	手技療法⑤(基礎実技)	23	関節可動域測定⑦
8	手技療法⑥(基礎実技)	24	関節可動域測定⑧(復習)
9	運動療法①(基礎実技)	25	触診①
10	運動療法②(基礎実技)	26	触診②
11	運動療法③(基礎実技)	27	触診③
12	運動療法④(基礎実技)	28	触診④
13	運動療法⑤(基礎実技)	29	触診⑤
14	運動療法⑥(基礎実技)	30	復習
15	復習	31	復習
16	中間テスト	32	定期テスト

教科書	資料配布
-----	------

授業科目		基礎柔整実技Ⅱ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	2	時間	64	担当教員	藤巻 将継・高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師の固定法は、歴史的に長い年月をかけて先人達が築きあげてきた独特の技術であり、主に臨床現場で師から弟子へと伝えられて来たものである。 2003年に標準となる教科書が編纂されたが、教育現場でも一定水準の技術とその理論を伝えるため、臨床に基づいた基礎技術の習得を目的とする。講義は副子、ギプスなども多く取り入れより臨床に即した内容とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	アルミ副子による固定	17	ポリキャスト(熱可塑性材料) パタフライスプリント
2		18	
3		19	
4	ブライトン(熱可塑性材料)による固定	20	ポリキャスト(熱可塑性材料) トゥーカバーブレース
5		21	
6		22	
7	ポリキャスト(熱可塑性材料) リスフランスプリント	23	キャストライトギプス(ショートアーム)
8		24	
9		25	
10	ポリキャスト(熱可塑性材料) トライアンフスプリント	26	キャストライトギプス(ショートレッグ)
11		27	
12		28	
13	復習	29	キャストシーネ(U字シーネ)
14		30	
15		31	
16	中間テスト	32	定期テスト

教科書	
-----	--

授業科目		柔整実技Ⅰ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	32	担当教員	久野 貴史（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師学校教育には教養試験OSCEとして認定実技試験が行われている。 この授業では認定実技審査に向けて基本的な臨床技能の習得を目指す。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	鎖骨骨折:整復、固定
3	上腕骨外科頸骨折:整復、固定
4	上腕骨外科頸骨折:固定
5	コーレス骨折:整復、固定
6	肩鎖関節上方脱臼:整復、固定
7	肩関節前方脱臼:整復、固定
8	肘関節後方脱臼:整復、固定
9	肘内障:整復
10	肩腱板損傷:整復
11	上腕二頭筋長頭腱損傷:整復
12	第5中手骨頸部骨折:固定
13	手第2指PIP関節背側脱臼:固定
14	総合復習
15	総合復習
16	総合復習

教科書	資料配付
-----	------

授業科目		柔整実技Ⅱ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	本木 利之（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師学校教育には教養試験OSCEとして認定実技試験が行われている。 この授業では認定実技審査に向けて基本的な臨床技能の習得を目指す。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	ハムストリングス肉離れ、大腿四頭筋損傷:診察
3	膝関節側副靱帯損傷、十字靱帯損傷、膝半月板損傷
4	膝Xサポートテープ
5	下腿三頭筋損傷、アキレス腱断裂:診察、固定
6	足関節靱帯損傷:診察、固定(テーピング含む)
7	下腿骨幹部骨折:固定
8	総合復習
9	総合復習
10	総合復習
11	総合復習
12	総合復習
13	総合復習
14	総合復習
15	総合復習
16	総合復習

教科書	資料配付
-----	------

授業科目		臨床実技Ⅰ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	3	時間	96	担当教員	藤巻 将継・久野 貴史・本木 利之（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師学校教育には教養試験OSCEとして認定実技審査が行われている。 この授業では認定実技審査に向けて基本的な臨床技能の習得を中心に、その他症例の多い外傷を加えつつ講義する。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17	検査関節上方脱臼： 整復/固定	33	肘内障：整復
2	鎖骨定型骨折： 整復/固定	18		34	
3		19		35	肩腱板損傷：診察
4		20		36	
5		21		37	上腕二頭筋長頭腱損傷：診察
6	上腕骨外科頸骨折： 整復	22	肩関節前方烏口下脱臼： 整復/固定	38	
7		23		39	第5指中手骨頸部骨折
8		24		40	
9	上腕骨骨幹部骨折： 固定	25		41	第2指PIP関節背側脱臼
10		26		42	
11	コーレス骨折： 整復/固定	27	肘関節後方脱臼： 整復/固定	43	復習
12		28		44	
13		29		45	
14		30		46	
15		31		47	
16	中間試験	32	中間試験	48	定期試験

教科書	柔道整復学実技編（南江堂）
-----	---------------

授業科目		臨床実技Ⅱ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	3	時間	96	担当教員	本木 利之・久野 貴史（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師学校教育には教養試験OSCEとして認定実技審査が行われている。 この授業では認定実技審査に向けて基本的な臨床技能の習得を中心に、その他症例の多い外傷を加えつつ講義する。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17		33	
2		18		34	下腿骨幹部骨折
3		19	膝関節十字靱帯損傷：診察	35	
4	ハムストリングス肉離れ：診察	20		36	
5		21		37	足関節：バスケットウィーブテープ固定
6		22		38	
7		23	下腿三頭筋肉離れ：診察	39	
8		24		40	
9	大腿四頭筋打撲：診察	25	アキレス腱断裂：固定	41	
10		26		42	足関節：フィギアエイト・ヒールロックテープ固定
11		27		43	
12		28		44	
13	膝関節側副靱帯：診察/固定	29	足関節捻挫：診察/固定	45	
14		30		46	復習
15		31		47	
16	中間試験	32	中間試験	48	定期試験

教科書	柔道整復学実技編（南江堂）
-----	---------------

授業科目		臨床実技Ⅲ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	32	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師学校教育には教養試験OSCEとして認定実技審査が行われている。 この授業では認定実技審査に向けて基本的な臨床技能の習得を中心に、その他症例の多い外傷を加えつつ講義する。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	肋骨骨折:固定(晒、厚紙副子固定)
3	
4	
5	
6	顎関節前方脱臼:整復/固定
7	
8	
9	
10	(総合)復習
11	
12	
13	
14	
15	
16	定期試験

教科書	学校柔道 改訂版 (史資料出版協会)
-----	--------------------

授業科目		スポーツ臨床実技Ⅳ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	32	担当教員	本木 利之（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	下肢の軟部組織損傷の主たるものについて、発生機序、鑑別診断、整復法、固定法を中心とした実技を学ぶ。実習を通じて術者、助手それぞれの役割分担も学びチームとして施術ができるようになることを目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	ハムストリングス肉離れ(P360～P365)
3	
4	膝前十字靱帯損傷(P366～P375)
5	
6	
7	膝内側側副靱帯損傷(P376～P381)
8	
9	半月板損傷(P382～P385)
10	
11	アキレス腱断裂(P386～P397)
12	
13	
14	下腿三頭筋肉離れ(P398～P402)
15	足関節捻挫(P403～P410)
16	

教科書	柔道整復学理論編第6版（南江堂） 柔道整復学実技編第2版（南江堂）
-----	--------------------------------------

授業科目		画像診断実技Ⅱ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	32	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	超音波画像の読影方法について学ぶ。画像診断の実際を学び、柔道整復学の治療に活用できるようにする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	固定練習(肩関節脱臼)
3	足関節のエコー
4	膝関節のエコーと触診
5	肘関節のエコーと触診
6	手関節のエコーと触診
7	認定実技練習
8	認定実技練習
9	認定実技練習
10	認定実技練習
11	認定実技練習
12	認定実技練習
13	認定実技練習
14	認定実技練習
15	認定実技練習
16	認定実技練習

教科書	超音波検査
-----	-------

授業科目		総合実技【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	久野 貴史（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	総合的な実技を通して現場に生きる技術を学ぶ。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	認定実技 柔道
2	認定実技 柔道
3	認定実技 柔道
4	認定実技 柔道
5	認定実技 柔道
6	柔道整復理論 P313～P320
7	柔道整復理論 P320～P325
8	柔道整復理論 P325～P330
9	柔道整復理論 P330～P335
10	柔道整復理論 P335～P340
11	柔道整復理論 P340～P345
12	柔道整復理論 P345～P350
13	総合演習
14	総合演習
15	総合演習
16	総合演習

教科書	
-----	--

授業科目		柔道整復総合演習【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	通年	単位	2	時間	64	担当教員	藤巻 将継（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	令和元年度の国家試験より、必修問題が50問に変更になり、内容も柔道整復学中心のものに改訂された。本講義では国家試験の内容に対応し、固定範囲、固定肢位、術者や助手の整復操作など新たに出題が予想される内容も盛り込んで講義をすすめる。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17	足関節部の機能解剖
2	膝関節部の機能解剖	18	下腿骨遠位部の骨折
3	大腿骨遠位部骨折	19	足根部の骨折
4	下腿近位部骨折	20	足関節の軟部組織損傷
5	膝関節脱臼	21	足・趾部の機能解剖
6	膝蓋骨骨折	22	足根骨骨折
7	膝関節部軟部損傷	23	中足骨骨折
8	膝関節部軟部損傷	24	趾骨骨折
9	下腿部の機能解剖	25	足根部の脱臼と軟部組織損傷
10	下腿骨幹部骨折	26	中足趾節関節、趾節間関節の脱臼
11	下腿部の軟部組織損傷	27	足、趾部の軟部組織損傷
12	注意すべき疾患	28	注意すべき疾患
13	前半復習	29	後半練習
14	前半復習	30	後半練習
15	前半復習	31	後半練習
16	前半復習	32	後半練習

教科書	資料配付
-----	------

授業科目		総合演習【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	90	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師は、その職域から外科分野、内科分野を含む幅広い知識を持って施術に当たる必要がある。そのため柔道整復分野のみならず、一般臨床医学、病理学などの内科疾患を含めた総合的診断力を必要とする。この講義では各科目を総合的に復習し、演習をすすめて行く。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	16	総合演習 (一般臨床医学および 柔道整復学)	31	総合演習 (病理学および 柔道整復学)
2	総合演習 (一般臨床医学および 柔道整復学)	17		32	
3		18		33	
4		19		34	
5		20		35	
6		21	総合演習 (病理学および 柔道整復学)	36	
7		22		37	
8		23		38	
9		24		39	
10		25		40	
11		26		41	まとめ
12		27		42	
13		28		43	
14		29		44	
15		30		45	

教科書	資料配付
-----	------

授業科目		競技者の外傷予防技術【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	各スポーツ特性を学び、その競技における予防技術の向上を図る。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	認定実技 固定総合練習
2	認定実技 固定総合練習
3	認定実技 固定総合練習
4	認定実技 固定総合練習
5	認定実技 固定総合練習
6	バスケットボール競技に多い外傷の特性
7	上記 実技(テーピング 包帯)
8	柔道脅威に多い外傷の特性
9	上記 実技(テーピング 包帯)
10	野球肘の特性
11	上記 実技(テーピング 包帯)
12	足関節捻挫の特性 エコー
13	上記 実技(テーピング 包帯)
14	サッカー競技に多い外傷の特性
15	上記 実技(テーピング 包帯)
16	まとめ

教科書	
-----	--

授業科目		臨床実習前施術試験等【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	久野 貴史（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師学校教育には教養試験OSCEが行われている。この授業では臨床実習で実際の患者に接する前に、教養試験OSCEを用いて、臨床能力をテスト判断した上で、臨床実習に参加させる事を目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	問診
3	視診
4	触診
5	バイタルサイン
6	局所症状の確認
7	合併症(血管、神経損傷)の確認
8	スペシャルテスト
9	スペシャルテスト
10	禁忌事項
11	まとめ
12	まとめ
13	復習
14	復習
15	復習
16	復習

教科書	資料配付
-----	------

授業科目		臨床実習			【実習】		学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	4	時間	180	担当教員
							久野 貴史・本木 利之（柔道整復師）	

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師として柔道整復施術所などで行う業務について理解する。 診察、施術、事務などの作業を学ぶ。
成績評価	定期試験にて評価する

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	臨床実習の心得	31	外部実習 (スポーツ現場⑤)	61	外部実習 (スポーツ現場⑩)
2	臨床実習の心得	32	外部実習 (スポーツ現場⑤)	62	外部実習 (スポーツ現場⑩)
3	総合実習、臨床実践 (主に診察方法)	33	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	63	総合実習、臨床実践 (主に施術録の記載方法について)
4	総合実習、臨床実践 (主に診察方法)	34	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	64	総合実習、臨床実践 (主に施術録の記載方法について)
5	総合実習、臨床実践 (主に診察方法)	35	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	65	総合実習、臨床実践 (主に施術録の記載方法について)
6	総合実習、臨床実践 (主に診察方法)	36	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	66	総合実習、臨床実践 (主に施術録の記載方法について)
7	外部実習 (スポーツ現場①)	37	外部実習 (スポーツ現場⑥)	67	外部実習 (スポーツ現場⑪)
8	外部実習 (スポーツ現場①)	38	外部実習 (スポーツ現場⑥)	68	外部実習 (スポーツ現場⑪)
9	総合実習、臨床実践 (主に骨折の整復について)	39	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の後療法について)	69	総合実習、臨床実践 (主に物理療法について)
10	総合実習、臨床実践 (主に骨折の整復について)	40	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の後療法について)	70	総合実習、臨床実践 (主に物理療法について)
11	総合実習、臨床実践 (主に骨折の整復について)	41	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の後療法について)	71	総合実習、臨床実践 (主に物理療法について)
12	総合実習、臨床実践 (主に骨折の整復について)	42	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の後療法について)	72	総合実習、臨床実践 (主に物理療法について)
13	外部実習 (スポーツ現場②)	43	外部実習 (スポーツ現場⑦)	73	外部実習 (スポーツ現場⑫)
14	外部実習 (スポーツ現場②)	44	外部実習 (スポーツ現場⑦)	74	外部実習 (スポーツ現場⑫)
15	総合実習、臨床実践 (主に骨折の固定について)	45	総合実習、臨床実践 (主に捻挫について)	75	総合実習、臨床実践 (主に運動療法について)
16	総合実習、臨床実践 (主に骨折の固定について)	46	総合実習、臨床実践 (主に捻挫について)	76	総合実習、臨床実践 (主に運動療法について)
17	総合実習、臨床実践 (主に骨折の固定について)	47	総合実習、臨床実践 (主に捻挫について)	77	外部実習 (介護現場①)
18	総合実習、臨床実践 (主に骨折の固定について)	48	総合実習、臨床実践 (主に捻挫について)	78	外部実習 (介護現場①)
19	外部実習 (スポーツ現場③)	49	外部実習 (スポーツ現場⑧)	79	外部実習 (スポーツ現場⑬)

20	外部実習 (スポーツ現場③)	50	外部実習 (スポーツ現場⑧)	80	外部実習 (スポーツ現場⑬)
21	総合実習、臨床実践 (主に骨折の後療法について)	51	総合実習、臨床実践 (主に打撲について)	81	総合実習、臨床実践 (主に手技療法について)
22	総合実習、臨床実践 (主に骨折の後療法について)	52	総合実習、臨床実践 (主に打撲について)	82	総合実習、臨床実践 (主に手技療法について)
23	総合実習、臨床実践 (主に骨折の後療法について)	53	総合実習、臨床実践 (主に打撲について)	83	総合実習、臨床実践 (主に手技療法について)
24	総合実習、臨床実践 (主に骨折の後療法について)	54	総合実習、臨床実践 (主に打撲について)	84	総合実習、臨床実践 (主に手技療法について)
25	外部実習 (スポーツ現場④)	55	外部実習 (スポーツ現場⑨)	85	外部実習 (スポーツ現場⑭)
26	外部実習 (スポーツ現場④)	56	外部実習 (スポーツ現場⑨)	86	外部実習 (スポーツ現場⑭)
27	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	57	総合実習、臨床実践 (主に挫傷について)	87	外部実習 (介護現場②)
28	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	58	総合実習、臨床実践 (主に挫傷について)	88	外部実習 (介護現場②)
29	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	59	総合実習、臨床実践 (主に挫傷について)	89	総合実習、臨床実践 (主に療養費申請について)
30	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	60	総合実習、臨床実践 (主に挫傷について)	90	総合実習、臨床実践 (主に療養費申請について)

教科書	柔道整復学実技編 (江南堂)	柔道整復師と機能訓練指導員 (江南堂)
	柔道整復学理論編 (江南堂)	
	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 (医歯薬出版)	